

第 42 回 防災カフェを開催しました。



災害にも強い地域づくりとは

ゲ ス ト：後藤 至功 さん

(佛教大学福祉教育開発センター 講師)

日 時：2019年10月18日(火) 18時30分～20時30分

場 所：滋賀県危機管理センター

ファシリテータ：高橋 宏和 さん

(県社会福祉協議会 事業部門 地域福祉課 課長)

後藤さんは1995年の阪神・淡路大震災で自宅が全壊し、避難所、仮設住宅、復興住宅を経験したことが避難所運営などの支援をするきっかけになったということでした。避難所を使うことになったときに、気を付けたいことや日ごろから心がけておくことを聴き、私たちができることをみんなで考えました。



ゲスト 後藤 至功 さん

災害があると人々が避難所に集まりますが、統計で言えば、これまでの災害では避難所の利用者数のピークは2～3日目で、これは行政による避難所支援が十分でない可能性が高い時期です。そのため行政の支援があるまでは、住民自らが避難所を開設・運営する必要があるかもしれません。

避難所での生活例ですが、西日本豪雨の広島県三原市の避難所の生活スケジュールには、「起床6時」ではなく「6時まで寝る」と書かれていました。それは高齢者が明け方から起き出されるための措置だということでした。こうした点から、避難所運営についても高齢社会の影響が出てきていることがうかがいしれます。

避難所運営の大きな課題の一つに避難した以降に亡くなる災害関連死があります。東日本大震災では3000人以上が亡くなり、その9割が66歳以上の高齢者でした。西日本豪雨では約50人、熊本地震では約200人でした。繰り返し行われる避難所の統廃合によっ

て環境が変わることも原因の一つだということでした。

避難所は8つの観点、「空間」、「安全」、「人員」、「情報」、「食料・物資」、「健康・衛生」、「ボランティア」、「総務」での管理が円滑な運営に繋がります。避難所の統治機構は男女比等の構成に配慮した避難所運営協議会を作って組織的に運営することが重要です。

以下、避難所で実際に起きた6つの中に、円滑な運営のヒントが見えてきます。

① 車いすの方で、トイレに行きたくても行けない。その結果、体調を崩した。

車いすが通れる通路がなかったためです。ロープと養生テープで視覚障がい者用の点字ブロック代用通路が作れます。要配慮の方と共同生活を意識することです。トイレについては洋式の設置は現在でも不十分で、和式は足腰の弱い人が使いにくく、水分補給が億劫になり水分不足になるという悪循環で体調を崩すこととなります。和式にセットできる洋式などもあります。

② 伝達事項は基本、館内放送にしていた避難所で具合が悪くなった男性がいた。



掲示板（内容が分類されている）

情報掲示板がなかったためです。避難所の苦情で多いのは「情報の混乱」によるトラブルです。情報の可視化が必要です。掲示板を設置し「炊き出し」、「医療」など内容を分類すると効果的です。多言語での掲示が必要な場合もあります。館内放送だけでは、聴覚障がいがあったり日本語のわからない方等には伝わりません。

③ 「ひとりでトイレに行かないで」という掲示が避難所に。

女性と子どもへの配慮です。トイレは居住区から離れているので、夜に犯罪に巻き込まれる可能性があります。ゴミ捨て場の散らかり方がひどくなると避難所が荒れてきます。授乳室や子どもが体を動かし大きな声を出せる遊び場の設置も大切です。子どもの泣き声も避難所の苦情でよくあります。



子ども用遊び場（益城町）

④ プライバシー配慮で背の高い仕切り板を導入。その結果救急車の搬送が多発。

内部が見えず体調変化の発見が遅れたためです。仕切り板には高さが90cm位のものもありますが、内部のみえない高い仕切り板が好まれます。日ごろから声掛けができる関係ができていたのですが、そうでなければ内部をうかがいにくくなります。プライバ

シーの確保と孤立化は紙一重で、避難所は町の縮図です。日ごろの声掛けとか助け合いとか見守りが大切です。また、みんなが集まれるようなスペース（お茶のみ場）も必要です。

⑤夏の日のこと。ペットボトルを絶対飲まない高齢の男性がいます。

力が入らず、自分で蓋を緩められないのに「開けて」と言えなかったためです。ボトルを渡す前に、目の前で蓋を緩めて渡すと飲まれたということでした。このように避難している人のプライドとか人格とかへの配慮がとても大事だということでした。

⑥寒いので毛布を取りに行くと倉庫の前で「待った」の声。そこに毛布があるのに。

平等分配の原則により、十分な数がなかったためです。緊急時なので必要な人に渡すようにすることです。いろいろな物資が届きますから整理や適切な管理が必要です。実際には失敗を繰り返しながら各避難所にあったルールができていきます。避難所環境について夏場には暑さや害虫対策、冬場には防寒対策、風水害の場合は、防粉じん対策が必要です。



ファシリテータ 高橋 宏和 さん

まとめとして、「一人ひとりの人格とか思いを大切にし、生活者の視点でしっかりと避難所を運営するということを意識してほしい。そのためには、日ごろからそれらを意識した地域づくりを目指してほしい。災害に強い地域づくりよりも『災害にも強い地域づくり』が大事です」というお話がありました。そして、終わりに、「見守りたくなる地域、見守られたくなる地域をさまざまな関係機関

とか団体が連携協働しながら作って行くということが大事だ」と言われたのが印象に残りました。

参加者からは多くの質問がありました。その一部を紹介します。

問：水害時に配慮の必要な方の2階への避難を援助する方法にはどのようなものがありますか？

答：車いすを乗せて階段を上下できる機械もありますし、車いすに取り付けて人力で階段を登れる器具もあります。おんぶ紐のようなものも販売されています。おんぶ紐は女性の方でも容易に運ぶことができます。しかも両手が使えます。



市販の災害用のおんぶ紐

後藤さん、高橋さん、参加者のみなさん ありがとうございました。